

第3章 「確かな学力」、「豊かな心」、「健やかな体」の育成

小学校以降の教育につながる乳幼児期の教育・保育の推進

平成30年度から実施の幼稚園教育要領等において、「幼児教育において育みたい資質・能力」を遊びを通して一体的に育むことの重要性が示され、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」が明確化された。この資質・能力の三つの柱は、幼児教育と小学校以降の教育を貫く柱として示され、幼稚園をはじめとする全ての学校教育において育むこととして整理された。また、小学校学習指導要領の、総則、低学年の全教科、特別活動に、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」を踏まえた指導の工夫を行うことが示されたことにより、小学校において、幼児期の育ちや学びを意識した指導が、今後より一層求められることとなる。

本県では、「教育に関する大綱」に示すように、乳幼児期における教育・保育は、生涯にわたる人格形成及び小学校以降の教育の基盤を培う重要なものであることから、「幼児期から大学・社会人まで」を見据え、学校・家庭・地域、さらには経済界や産業界も含めた「オール広島県」で、「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材」の育成に取り組んでいるところである。生涯にわたって主体的に学び続けるには、自ら課題を見付け、課題の解決に向けて探究する力を、乳幼児期から「遊び」を通して育成することが重要である。

こうしたことから、家庭、幼稚園・保育所・認定こども園・地域型保育（以下「園・所」という。）など子供が育つ環境に関わらず、県内全ての乳幼児に小学校以降の教育の基盤が培われるよう、「オール広島県」で取り組むための目指す乳幼児の姿と乳幼児期に育みたい5つの力を整理し、平成29年2月に「遊び 学び 育つひろしまっ子」推進プランを策定した。また、平成30年4月には、乳幼児教育支援センターを設置し、本プランに掲げる施策を総合的に推進しているところである。

プランの目指す乳幼児の姿や乳幼児期に育みたい5つの力は、本県の「広島版『学びの変革』アクション・プラン」に示す「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力」へとつながっていく力である。

広島県「教育に関する大綱」

本県の育成すべき人材

「生涯にわたって主体的に学び続け、多様な人々と協働して新たな価値を創造することのできる人材」

広島版「学びの変革」アクション・プラン

「これからの社会で活躍するために必要な資質・能力」

知識	スキル	意欲・態度	価値観・倫理観
知識・情報	課題発見・解決力 知識・情報活用能力 論理的・建設的批判能力 思考力・判断力・表現力 コミュニケーション能力	協調性・柔軟性 主体性・積極性 回復力・耐える力 多様性に対する適応力	自己理解・自らへの自信 異文化理解・共感力 アイデンティティー 高い志・使命感

「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン

乳幼児期に育みたい5つの力

感じる・気付く力

うごく力

考える力

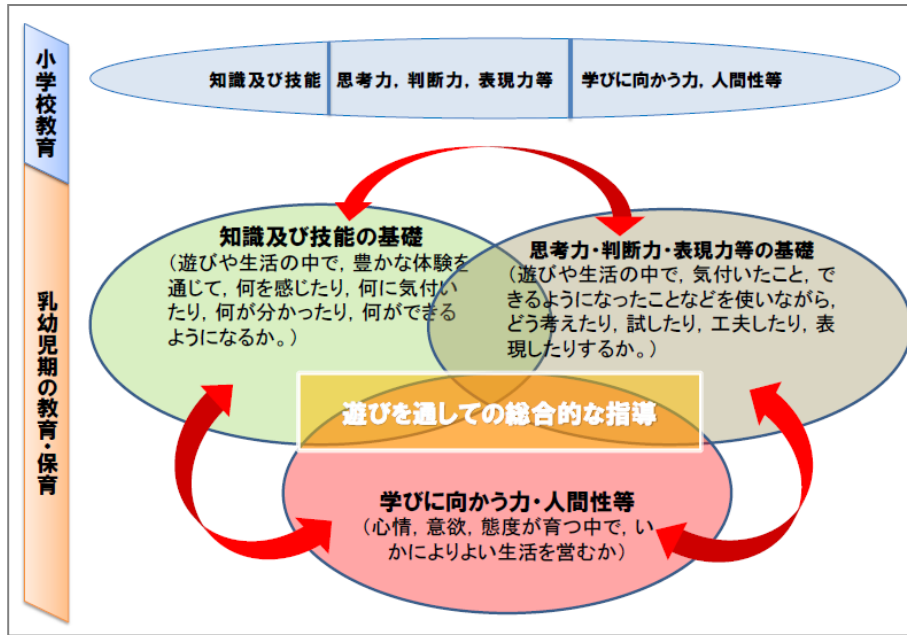
やりぬく力

人とかわる力

1 幼稚園教育要領等に基づく教育

(1) 幼児教育において育みたい資質・能力

幼稚園教育要領等には、各園において幼児教育の基本を踏まえ、小学校以降の子供の発達を見通しながら教育活動を展開し、「知識及び技能の基礎」、「思考力、判断力、表現力等の基礎」、「学びに向かう力、人間性等」といった幼児教育において育みたい資質・能力を、5領域のねらい及び内容に基づく活動全体によって育むことが示されている。これらの資質・能力は、これまでも遊びを通じた総合的な指導の中で一体的に育まれてきたものではあるが、実践における子供の具体的な姿からこの資質・能力を改めて捉え、教育及び保育の充実を図ることが求められている。

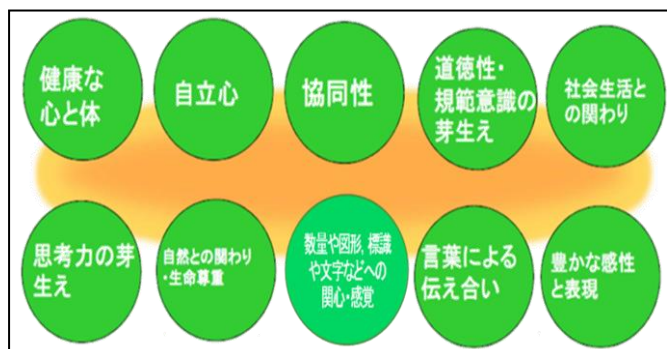


(2) 幼児期の終わりまでに育ってほしい姿

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、5領域のねらい及び内容に基づいて、乳幼児期にふさわしい遊びや生活を積み重ねることにより、幼児教育において育みたい資質・能力が育まれている子供の具体的な姿であり、特に5歳児後半に見られるようになる姿である。また、この姿は、5歳児に突然見られるようになるものではないため、その前の時期から、子供が発達していく方向を意識して、それぞれの時期にふさわしい指導を積み重ねていくことに留意する必要がある。

また、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」は、到達すべき目標ではないし、個別に取り出して指導するものでもない。教員・保育士等は、この姿を念頭に置いて、子供の姿を捉え、遊びの中で子供一人一人の発達に必要な体験が得られるような状況をつくったり、必要な援助を行ったりするなど、指導を行う際に考慮することが求められる。

さらに、この姿を手掛かりに、イメージする子供の姿を小学校の教師と共有し話し合いながら、幼保小の円滑な接続を図ることが大切である。



(3) 小学校教育との接続

子供は、園・所から小学校へ移行していく中で、突然違った存在になるわけではない。発達や学びは連続しており、園・所から小学校への移行を円滑にする必要がある。

しかし、園・所と小学校では、子供の生活や教育の方法が異なることから、子供の発達と学びの連続性を確保するためには、子供の発達を長期的な視点で捉え、園・所の教育・保育内容と小学校教育の教育内容、互いの指導方法の違いや共通点について理解を深めることが大切である。

そのため、小学校の教師との意見交換や合同の研究会や研修会、保育参観や授業参観などを通じて連携を図ることが大切である。さらに、園・所と小学校の子供同士の交流の機会を設け、連携を図ることが大切である。

2 「遊び 学び 育つひろしまっ子！」推進プラン

(1) 教育・保育内容、教員・保育士等の研修の充実

ア 目指す乳幼児の姿と乳幼児期に育みたい力

遊び 学び 育つひろしまっ子！

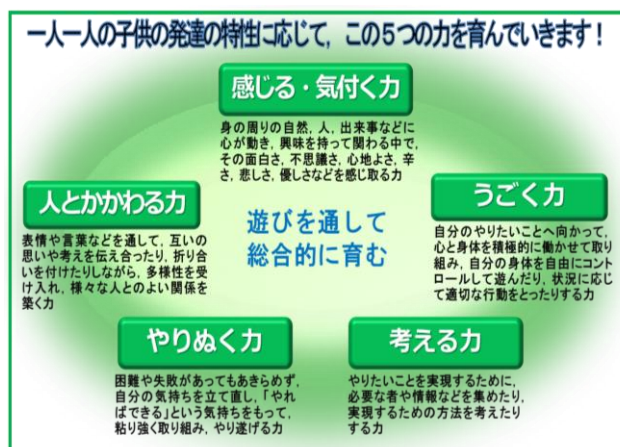
乳幼児の生活のほとんどは、「遊び」によって占められている。熱中する「遊び」の中で、発見すること、体を動かすこと、創造すること、出来なかったことや失敗を乗り越えること、人と関わることなどを繰り返し経験することで「探究の芽」が育まれ、これが生涯にわたって主体的に学び続けることにつながっていく。乳幼児期の子供にとって、「遊び」は探究の宝庫で、「遊び」そのものが学びなのである。

こうしたことから、子供が育つ環境に関わらず、県内全ての乳幼児に小学校以降の教育の基礎が培われるよう、「オール広島県」で取り組むための目指す乳幼児の姿を「遊び 学び 育つひろしまっ子！」とした。

「遊び 学び 育つひろしまっ子」とは、「『豊かに感じ気付く子』、『思いっきり体を動かして遊ぶ子』、『遊びを創り出す子』、『夢中でとことん遊ぶ子』、『心を通わせて遊ぶ子』であり、『遊び』を通して、子供それぞれの心と体の発達が促され、『探究の芽』が育っている広島の子供」である。

乳幼児期に育みたい力については、これまでの調査から明らかとなった、「『人間関係』、『言葉』の領域について留意すべき点がある」、「多様な運動の経験が不足している」といった本県の幼児の育ちの状況や、国が示している「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」10項目の内容等、今後の乳幼児期の教育・保育の方向性を踏まえ、「感じる・気付く力」、「うごく力」、「考える力」、「やりぬく力」、「人とかかわる力」の5つの力に整理した。

この目指す姿や5つの力は、子供の育ちの方向性を示すものであり、ここまで到達しなければならないといったものや、個別に取り出して身に付けさせるものでもない。一人一人の発達の特性（その



子供らしい見方，考え方，感じ方，関わり方など）を大切にし，その子供のもっている力をさらに伸ばし引き出しながら，育てていくことが重要である。

子供に関わる保護者や教員・保育士等は，一人一人の子供が興味・関心に基づいてやりたいことを自由に選択できるような環境の中で，じっくりと遊ぶことができる時間や場を確保し，安心して主体性を発揮しながら「遊び」を展開していくことができるようにしていくことが重要である。

5歳 「ケイドロしよう！」

ケイドロしよう
と10人が集まり
ました。
「グッパッパで
分かれましょ」
「5人ずつになっ
たー」
「こっちが泥棒
でいい？じゃ逃
げるけー」
みんなは，勢
いよく駆け出しま
した。

「C，助けてー」と捕
まったDが叫ぶと，Cが
駆け寄ります。敵のEは
わずかなすきを見て，C
にもタッチしました。大喜
びです。二人が逃げな
いよう見張っています。
しかし，Eが後ろを向い
ているすきに，二人の味
方が木の陰から近付き
ました。
「やったーありがとう」
CとDは脱出に成功です。

Eは悔しそうな表情です。でも，
「Eそっち行ったぞー」
「よし，分かった」
と，今度は仲間同士で声を掛
け合いながら追いかけてます。
「きたきた，やばいー」
「おっと，セーフ」
ぎりぎりのところで相手をおか
したり，遊具の間をうまくくぐったり，
水たまりを飛び越えたりしながら，
思いっきり身体を動かして，追
いかけることや逃げることを，みん
なで楽しめました。

「汗，いっぱいかいたー！」
「僕も！」
「F速いけど，タッチできた」
「G，足速くなったねー」
部屋へ戻りながら，楽しかった
こと，頑張ったことについてのお
しゃべりがはずむ，みんなでした。

友達とかかわりな
がら，思いっきり
走って遊ぶ心地
よさを味わって
いる

全力で走ったり追
かけたり，危険を回
避し，とっさに身を交
わしたりするなどし
て巧みに身体を動
かしている

敵と味方が，同じ人
数になるように数え
ている
逃げる方向や味方
を助ける作戦を考
えている

捕まったり逃げら
れたりした悔しさか
ら気持ちを立て直
し，遊び続けている

競争したり，助け
合ったりしながら，
ルールを守って
一緒に遊ぶ楽しさ
に気付いている

感じる・気付く力

うごく力

考える力

やりぬく力

人とかかわる力

この時期の子供は，集団での遊びを楽しみます。一方で，得意な遊びや性格，特徴など，自分と違う友達の個性を認めて，様々な感情を抱くようになります。そんな時，心に寄り添い，共に力を出してくれる大人や友達の存在が，発達をより高めるきっかけになります。



5つの力が育まれている具体的な場面
参考：「遊び 学び 育つひろしまっ子！」教育・保育実践事例集 P53

イ 目指す乳幼児の姿の実現に向けた取組

本県では平成 30 年度から「遊び 学び 育つひろしまっ子！」の実現に向けたカリキュラム研究開発事業を実施し，県内 4 園の指定園において，5つの力の育成を意識したカリキュラム等の作成を行っている。

また，県内の教育・保育の実践をまとめた「教育・保育実践事例集」を活用した各種研修や，幼児教育アドバイザーが園・所等を訪問する「幼児教育アドバイザー訪問事業」などを実施することにより，教育・保育内容を充実させるとともに，目指す子供の姿の実現を図っている。



「遊び 学び 育つひろしまっ子！」の実現に向けたカリキュラムの研究開発事業
(左：尾道市立因島南認定こども園，右：東広島市立御園宇幼稚園)



(2) 幼保小連携教育の推進

ア 本県の幼保小接続についての考え方

小学校学習指導要領第1章総則（平成29年）には学校段階等間の接続の観点から、「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿を踏まえた指導を工夫することにより、幼稚園教育要領等に基づく幼児期の教育を通して育まれた資質・能力を踏まえて教育活動を実施し、児童が主体的に自己を発揮しながら学びに向かうことが可能となるようにすること」と規定され、前の学校段階での教育が次の段階で生かされるよう、学びの連続性を確保することがより一層重視されている。

これを受け、小学校学習指導要領解説生活編（平成29年7月）には、「遊びや生活を通して総合的に学んでいく幼児期の教育課程と、各教科等の学習内容を系統的に学ぶ等の児童期の教育課程は、内容や進め方が大きく異なる。そこで、入学当初は、幼児期の生活に近い活動と児童期の学び方を織り交ぜながら、幼児期の豊かな学びと育ちを踏まえて、児童が主体的に自己を発揮できるようにする場面を意図的につくることが求められる。」と、スタートカリキュラムが、幼児期の教育と小学校教育を円滑に接続する重要な役割を担っていることが示されている。

本県では、園・所が中心となって編成する年長児のカリキュラム（アプローチカリキュラム）と、小学校が中心となって編成する小学校第1学年のカリキュラム（スタートカリキュラム）の「つながり」、「接続」を意識して編成されたカリキュラムを「幼保小接続カリキュラム」とした。

乳幼児期に子供は遊びの中で、成長や発達に重要なことを多く学んでいる。つまり、小学校1年生で学びがゼロからスタートするのではない。接続期は小学校の前倒しや準備の期間ではなく、幼児期に遊びを通して育まれてきた「学びの芽生え」を、各教科等の「自覚的な学び」につなぐとともに、自分のことが自分ででき、新しい環境に慣れ、安心して生活できるようにすることが大切な時期である。

アプローチカリキュラムとは

園・所

遊びを通した5つの力の育ちが、小学校の学習や生活につながるように、幼児期の子供が主体的に環境と関わり自己を発揮することができるようにするためのカリキュラム

【作成のポイント】

- 創造的な思考の基礎を培う工夫
- 協同して遊ぶ経験が繰り返しできる工夫
- 主体的な生活態度を培う環境構成などの工夫
- 幼児と児童の交流活動の工夫

スタートカリキュラムとは

小学校

小学校へ入学した子供が、園・所の遊びや生活を通した学びと育ちを基礎として、主体的に自己を発揮し、新しい学校生活を創り出していくためのカリキュラム

【作成のポイント】

- 子供の発達を踏まえた時間割や学習活動の工夫
- 生活科を中心とした合科的・関連的な指導の充実
- 安心して自ら学びを広げることのできる学習環境の整備
- 児童と幼児の交流活動の工夫

幼保小接続カリキュラムのキーワード

子供たちが、主体的にのびのびと自己発揮できる！



イ 幼保小の接続に係る研修の実施

本県では、子供の育ちと学びを連続させていく幼保小接続カリキュラムの必要性を理解し、小学校と園・所等が協働しながら子供の育ちと学びをつなぐ連携・接続の取組を進められるよう、次のような研修会を実施している。

- 幼保小連携担当教員対象の研修会
- 「特別な支援を必要とする幼児・児童のための幼保小接続期の教育・保育」講座
- 幼保小連携「幼保小の円滑な接続！育ちと学びをつなぐ」講座


昨年度の幼保小連携担当教員を対象とした研修会では、子供の育ちと学びを連続させていく幼保小接続カリキュラムの必要性や幼保小連携担当教員の役割等について研修した。

平成 31 年度は、平成 32 年度スタートカリキュラム実施に向け、スタートカリキュラムの作成に係る具体的な内容を盛り込んだ研修会を実施する。

<p>幼保小連携担当教員研修会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福山会場 平成 30 年 9 月 10 日 (月) ・三原会場 平成 30 年 9 月 13 日 (木) ・広島会場 平成 30 年 9 月 27 日 (木) ・三次会場 平成 30 年 10 月 1 日 (月) <p>対象者：小学校の幼保小連携担当教員各校 1 名、行政関係者</p>	<div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div data-bbox="885 436 1109 571"> <p>【園・所等との連携】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育・保育内容や指導方法の相互理解を図るための、幼保小合同研修に向けた企画立案、連絡調整、運営を行う ・乳幼児・児童の実態を把握する </div> <div data-bbox="1125 436 1380 672"> <p>【小学校内での連携・調整】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小接続の考え方を校内で共通理解するための研修に向けた、企画立案、連絡調整、運営を行う ・スタートカリキュラムの編成、実施、評価、改善を進める ・管理職とともに、校内の協力体制を整備する ・幼保小接続の考え方を保護者へ発信する ・特別支援教育コーディネーターと連携し、個別の教育支援計画等を活用しながら、入学予定幼児の情報を共有する </div> </div> <div data-bbox="1013 560 1125 728" style="text-align: center;">  <p>連携担当教員</p> </div> <div data-bbox="885 694 1380 761"> <p>【情報収集】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼保小接続に関わる研修等に積極的に参加する ・先進的な取組について情報収集する </div>
	<p>幼保小連携担当教員の役割例 ※「幼保小接続カリキュラム実践事例集」P 6 参照</p>


幼保小連携担当教員研修会～平成 30 年度の研修の様子～

これらのことにより、小学校と園・所等が連携し、お互いの教育・保育を理解し、見通すことで、園・所等での育ちと学びを小学校での学びにつなぐ教育活動が実践され、幼保小連携教育の充実が図られるようにしていく。



「幼保小接続カリキュラム実践事例集」、 「幼児教育アドバイザー訪問事業」、 「教育・保育実践事例集」は、広島県教育委員会ホームページ（幼児教育）で、紹介しています。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/site/kyouiku/youji-index.html>



(3) 家庭教育支援の充実

家庭での教育は、子供たちに基本的な生活習慣、自立心、思いやり、社会的なマナーなどの基礎を育むものであり、家庭教育支援とは、保護者が自信と安心感をもって子育てすることができるよう、親の学びや育ちを支援することである。

特に乳幼児期は、人生のあらゆる営みの土台となる忍耐力や協調性などの力が大きく発達し、語彙を増やしていく大切な時期であるため、「乳幼児期に育みたい 5 つの力」を育むためには、家庭での保護者の関わり方が大変重要である。

本県では、家庭での取組に役立つ科学的根拠に基づいた重要な情報を保護者に提供するとともに、保護者の悩みに対応した子供への接し方や子供の意欲やことばの力を育む子育てについて、保護者同士が集い主体的に学び合う参加体験型の学習機会の充実に取り組んでいる。また、地域の身近な支援者として、保護者に寄り添い話を聞いたり、親子を地域の関係機関等へつないだりすることができる人材の育成やその組織化にも取り組んでいる。



マンガ等による分かりやすく親しみやすい情報提供



保護者に役立つ情報をお届けしています。
家庭教育支援のページ「親子コミひろしま」
<http://www.facebook.com/h.edu.kateikyoku>

